



学校法人桐蔭学園

中期目標・計画

令和7年度～令和11年度



変化の激しい問題解決の現代社会において、今学校はどのように子ども・生徒学生を教育すればいいかが真正面から問われるようになっていきます。コロナ禍を経て、いわゆる通常の学校に行かず、できるだけ家庭を中心に好きなように時間を過ごし好きなように学びたいという子ども・生徒が増えています。そのような学びの多様性を認めることも、近代化が進んだ現代社会の一つの包摂課題となっており、フリースクールや広域通信制高校等も毎年新設され、充実してきています。オンラインやネットワーク等の情報技術も高度に進歩しており、そのような多様な学びを支えています。少子化も急速に進み、授業料無償化政策が公私を問わず政治的に進められています。

このような中、学業・スポーツ・文化芸術等の様々な分野の活動を創出してきた大規模な桐蔭学園が、子ども・生徒学生一人ひとりの学びと成長にどれだけ資する教育を提供できるかが、これから益々問われてくると思います。学園が目指す教育ビジョンや教育目標を明確にし、それをステークホルダー（在籍する園児・児童・生徒・学生はもとより、受験者・保護者、卒業生、地域の方々など）と共有し、取り組みを発展させていかなければいけません。

この度、私立学校法及び学校法人桐蔭学園寄附行為第 57 条 2 項に基づき、学校法人桐蔭学園の中期目標・計画を策定することになりました。桐蔭学園は、幼稚園・小学校・中等教育学校・高等学校・大学を擁する総合学園ですが、これまでは各学校でそれぞれ策定したものをまとめて、桐蔭学園の中期目標・計画としていました。今回は、各学校の改革が一定程度成果を上げてきたことを受け、上記に述べた現代社会の新しい進展、そしてこれまで築いてきた学園の伝統も踏まえて、桐蔭学園の革新的な教育力を学園の総力をあげて示すことにしました。具体的には、学園全体で先に教育ビジョン「自ら考え、判断し、行動する」子ども・生徒学生の育成を掲げ、それに関連付ける形で、各学校が「教育目標」「育成を目指す資質・能力」等を策定しています。

桐蔭学園は、2014 年に創立 50 周年を迎え、それまでの教育方針を大幅に転換しました。特に中等教育学校、高等学校において「自ら考え、判断し、行動する」子どもの育成を教育ビジョンとして掲げ、教育活動に取り組んでまいりました。それから 10 年が経ち、この度その教育ビジョンを学園全体のものとして公式に確認し、幼稚園から大学までのすべての学校段階でこの教育ビジョンを共有して、桐蔭学園の伝統と革新を踏まえた教育体制の構築を総合的に目指します。私たちは時代を先導する全国の学校のフロントランナーとして、子ども・生徒学生が新しい社会を力強く生きていくためにどのような教育の取り組みを行えばいいかを考え続け、実践してまいります。

学校法人桐蔭学園 理事長 溝上 慎一

令和 7 年 3 月 29 日

目 次

巻頭言	1
目次	2
1. 学校法人桐蔭学園の教育の目的	3
2. 桐蔭横浜大学の運営方針	5
3. 桐蔭学園高等学校の運営方針	8
4. 桐蔭学園中等教育学校の運営方針	10
5. 桐蔭学園小学校の運営方針	12
6. 桐蔭学園幼稚園の運営方針	14
7. 学校法人本部の職務目標	16
法人事務局、法人総務部、人事労務部、財務部、施設・調達室、事務部 情報センター、図書センター、健康管理センター、トランジションセンター グローバルセンター、文化センター	

1. 学校法人桐蔭学園の教育の目的

▶ 建学の精神

桐蔭学園は、1964年に、三菱化成工業の元社長の柴田周吉が、私財と、東急電鉄から譲り受けた土地をもとに、11名の産官学の設立発起人と共に創立した。建学の精神は、柴田周吉（初代理事長）と鶴川昇（初代校長、二代目理事長）の合作による四か条からなり、最後の五か条目は創立50周年の時に追加された。

建学の精神

社会連帯を基調とした、義務を実行する自由人たれ
学問に徹し、求学の精神の持ち主たれ
道義の精神を高揚し、誇り高き人格者たれ
国を愛し、民族を愛する国民たれ
自然を愛し、平和を愛する国際人たれ

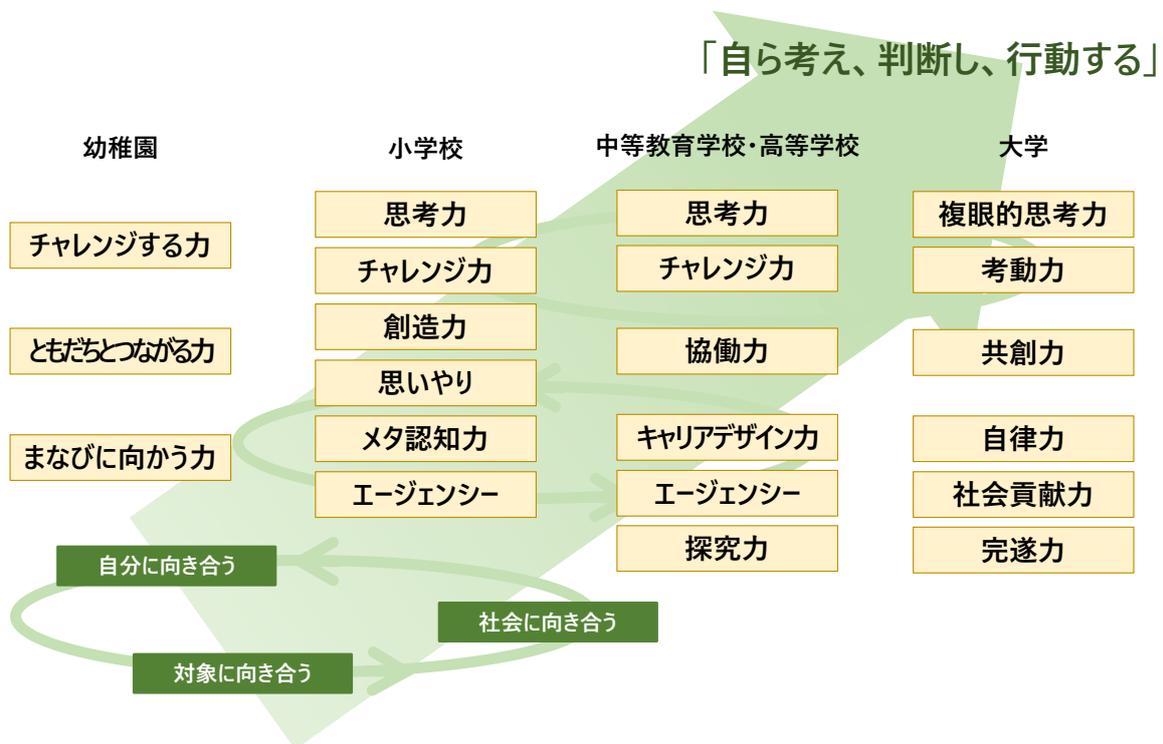


▶ 教育ビジョン

「自ら考え、判断し、行動する」

桐蔭学園の建学の精神を踏まえて、現代版の桐蔭学園の教育ビジョンとして策定された。変化の激しい問題解決型の現代社会に立ち向かう「自ら考え、判断し、行動する」桐蔭生らしい子ども・生徒学生を学園全体で育成する。

▶ 育成を目指す資質・能力



2. 桐蔭横浜大学の運営方針

▶ 教育目標

桐蔭横浜大学は、課程内外のあらゆる活動を通じて、深い教養と倫理観を礎とした知識・技能を有し、「自ら考え、判断し、行動する」ことで、地域社会の持続可能な発展に貢献し新たな価値を生み出すことができる人材を育て、輩出する。

▶ 育成を目指す資質・能力

上記教育目標を達成するため、この不確実な時代において自ら考え、主体的に行動に、責任を持って社会の変化に関わっていくことができる「人生と学びの基盤となる力」（＝TOIN 6）を育成することをユニバーシティ・ポリシーとして宣言する。

複眼的思考力	【多角的に考えるチカラ】 多角的な視点と柔軟な心をもって、物事をとらえることができる。
考動力	【考えて動くチカラ】 物事を批判的にとらえて問題を発見するとともに、その問題解決のために行動することができる。
共創力	【共に創るチカラ】 他者の意見や考えに耳を傾けるとともに、自らの意見や考えを表現し、協働しながら新たな価値を創造することができる。
自律力	【自分を律するチカラ】 長期的な展望をもって、その実現のために必要となる物事を理解し、自ら計画し、実行することができる。
社会貢献力	【社会に貢献するチカラ】 自らの強みを生かして他者や地域、社会の抱える問題の解決に参画し、貢献することができる。
完遂力	【最後までやり遂げるチカラ】 積極的に新しいことに挑戦するとともに、粘り強く最後までやり遂げることができる。

▶ アセスメントの計画

桐蔭横浜大学は、教育目標を達成するため、「育成を目指す資質・能力」についてアセスメントを行う。具体的には、「育成を目指す資質・能力」を掲げるユニバーシティ・ポリシーの達成度を測定・評価するためのメタ・ルーブリックを策定し、それを用いて、学生教育を深化させるとともに、学生の学習成果を測定・評価する。

- 各学位プログラムにおいては、ディプロマ・ポリシーの達成度を測定・評価するためのルーブリック等を用いて学生教育を深化させるとともに、学生の学習成果を測定・評価する。
- 大学共通 MAST プログラムにおける必修科目等において、共通教育センター長の責任のもと、学生への教育、及び学生の学習成果を測定・評価する。
- 各学位プログラムにおける各年次配当科目において、各学部長等の責任のもと、学生への教育、及び学生の学習成果を測定・評価する。
- 各学位プログラムにおける最終年次の総括科目（卒業研究等）において、各学部長等の責任のもと、学生への教育、及び学生の学習成果を測定・評価する。
- 全学学務委員長の責任のもと、入学時のアンケート調査、各年次の学修行動調査、卒業時のアンケート調査を実施し、学生全体の状況を把握し、評価する。
- 各責任において実施された測定、評価を自己点検評価委員会において確認し、学長の責任のもと、必要な改善等を審議する。
- アセスメントに関わる事項は、自己点検評価委員会の判断のもと、必要と認めたものについては、広く社会に公表することとする。

▶ 今期の重点目標

(教育)

- 修学を阻害する経済、健康その他の要因があれば学生に寄り添い伴走支援する。すべての学生が安心・安全な状況及び環境で学ぶことができるよう、必要な制度や体制の整備を実施する。
- 学生と職業社会の本質及び変化を具に分析し、学生が社会的・職業的に自立し、社会の成長とともにウェルビーイングを実現できるよう、課程内外を通じて徹底したキャリア支援を実施する。

(研究)

- 倫理的で規律ある研究活動を通じて、新たな知の創造や社会課題の解決に挑み、その成果を広く社会に還元するとともに、学生教育の絶えざる更新に努める。

(社会貢献)

- ステークホルダーとの強固な信頼関係を維持し、教職員による研究成果の普及と、学生を含むすべての構成員による社会実践の活動を通じて、地域社会の課題解決と持続的な発展に貢献する。

(運営)

- 学長のリーダーシップのもと、関係法令及び各規則・規程に則り、透明かつ公正な大学運営を行う。教職員は遵法精神に則り、意欲的に、適切な役割分担のもとで大学運営に参画する。
- 優れた研究や実践の実績に基づき、学生の学びと成長に向き合い日々研鑽することが出来る教員を、各学部等・研究科における教育課程編成・実施の方針を踏まえ配置するとともに、全体として必要な教育活動等に全教職員を挙げて参画する。
- 刻々と進展する教育・研究活動を効果的・効率的に支援し、学生及び教職員の安全と利便性に配慮した環境を整備する。
- 学生の学びと成長に不可欠な予算計画を精緻に策定し、厳正にそれを執行することを通じて、学園財政にも貢献する。
- 収容定員充足率を踏まえ、教育組織の絶えざる構造改革に努める。
- 内部質保証の方針を踏まえ、教育、研究、社会貢献等諸活動について点検・評価を行い、その結果をもとに改革・改善を行うことにより質の保証と向上に努める。大学運営の情報については積極的に公表し、社会への説明責任を果たす。

3. 桐蔭学園高等学校の運営方針

▶ 教育目標

「自ら考え、判断し、行動できる子どもたち」を教育ビジョンとし、以下の4項目を学校教育目標として定める。

- 他者を承認した上で、多様な人たちと協働できる。
- 学び続け問い続けながら、探究することができる。
- 自己を知り、将来の見通しを持って自らを高めることができる。
- 未知に挑み、出会いを生かして世界を広げることができる。

▶ 育成を目指す資質・能力

上記教育目標を達成するため、以下の6項目を育成を目指す資質・能力として定める。

思考力	【常に疑問を持ちながら、客観的に深く考えるチカラ】 思い込みや直感を排除し、観察・分析・推論を通して客観的に考えるだけでなく、常に疑問を持って深い思考を行い、物事の本質に迫って考えることができる。
探究力	【問い続けて探究するチカラ】 問いを立てて、その解決に向けて適切な情報を収集し、その内容を分析整理しながら本質にまで迫り、問題解決できる。
協働力	【人とつながり、違いを認め合いながら協働できるチカラ】 他者の個性や価値観を需要した上でよりよい関係性を築き、意見調整を進めながらチームで力を合わせて物事に取り組むことができる。
キャリアデザイン力	【自己理解と社会理解を踏まえ、自分の道を切り拓くチカラ】 自分の強み・弱み、志向性について理解するだけでなく、社会情勢についても理解した上でありたい自分の姿を描き、その実現のために必要なことを理解して実行することができる。
E-ジェンシー	【自己を更新し続け、集団・社会のために主体的に行動するチカラ】 常に学び続け、自己を高める姿勢を持ちながら、俯瞰的な視点を持ってすべきことを把握し、集団・地域・社会をよりよくするために主体的に行動することができる。
チャレンジ力	【一歩踏み出し、やり抜くことで世界を広げるチカラ】 初めてのことであっても、その機会や出会いをチャンスと捉えて臆することなく挑戦し、最後までやり抜くことで自分の世界を広げることができる。

▶ アセスメントの計画

上記 6 項目について生徒の入学時から卒業時までの成長を視野に入れ、以下のとおりアセスメントを行う。また、アセスメントの結果は生徒指導・支援のみならず、教育改善に活用する。

- 「スクールポリシーに関するアンケート」および「学びに関するアンケート」を実施する。この 2 つでは上記 6 項目についてその達成度を尋ねるとともに、主体的に取り組んだ校内の活動についても尋ねることで、これらの関係性を明らかにし、教育活動の計画立案・実施・見直しに活用する。
- 上記のアンケートを補完する役割として、「学びみらい PASS（河合塾）」および「学びの手引き（キャリアパスポート）」における自己評価を活用する。

▶ 今期の重点目標

○ アクティブラーニング型授業

形骸化を招かないよう、生徒の学びの様子をよく観察するなかで、教科のグランドデザインや育てたい資質・能力とのつながりを意識して AL 活動を構成することが肝要である。

○ 探究（未来への扉）

この 10 年、社会における探究についての理解は各段に進み、入学者のみらとびへの期待は高まっている。探究力はもとより、エージェンシーやキャリアデザイン力を育てる学習活動であることを生徒・教員が共有していく。

○ キャリア教育

各年次のテーマを通じ、一人ひとりの生徒が、「なりたい自分」と「今の自分」をつなげる魅力的な物語を紡ぐとともに、必要な行動を具体化できるように生徒を支援する。

○ コースごとの教育

それぞれのコースの生徒たちは、資質、入学方法、志望する進路などのうえで、傾向が大きく異なる。要するにニーズの相違があるのである。コースごとの教育の成果をさらに高めるための体制づくりを進めるとともに、学年進行をベースにした教育との調和を目指す。

○ 生徒の自治活動

学校で起こる問題を、教員の側から見れば指導について考えることになるが、生徒の側から見れば自立・協働そして自治について考えることとなる。この観点からいえば、学校の教育力は、生徒相互の学習力・教育力によるところが大きい。生徒一人ひとり、各生徒集団、生徒組織が、自治さらに調和を目指して活動することを支援する。

4. 桐蔭学園中等教育学校の運営方針

▶ 教育目標

「自ら考え、判断し、行動できる子どもたち」を教育ビジョンとし、以下の4項目を学校教育目標として定める。

- 他者を承認した上で、多様な人たちと協働できる。
- 学び続け問い続けながら、探究することができる。
- 自己を知り、将来の見通しを持って自らを高めることができる。
- 未知に挑み、出会いを生かして世界を広げることができる。

▶ 育成を目指す資質・能力

上記教育目標を達成するため、以下の6項目を育成を目指す資質・能力として定める。

思考力	【常に疑問を持ちながら、客観的に深く考えるチカラ】 思い込みや直感を排除し、観察・分析・推論を通して客観的に考えるだけでなく、常に疑問を持って深い思考を行い、物事の本質に迫って考えることができる。
探究力	【問い続けて探究するチカラ】 問いを立てて、その解決に向けて適切な情報を収集し、その内容を分析整理しながら本質にまで迫り、問題解決できる。
協働力	【人とつながり、違いを認め合いながら協働できるチカラ】 他者の個性や価値観を需要した上でよりよい関係性を築き、意見調整を進めながらチームで力を合わせて物事に取り組むことができる。
キャリアデザイン力	【自己理解と社会理解を踏まえ、自分の道を切り拓くチカラ】 自分の強み・弱み、志向性について理解するだけでなく、社会情勢についても理解した上でありたい自分の姿を描き、その実現のために必要なことを理解して実行することができる。
エージェンシー	【自己を更新し続け、集団・社会のために主体的に行動するチカラ】 常に学び続け、自己を高める姿勢を持ちながら、俯瞰的な視点を持ってすべきことを把握し、集団・地域・社会をよりよくするために主体的に行動することができる。
チャレンジ力	【一歩踏み出し、やり抜くことで世界を広げるチカラ】 初めてのことであっても、その機会や出会いをチャンスと捉えて臆することなく挑戦し、最後までやり抜くことで自分の世界を広げることができる。

▶ アセスメントの計画

上記 6 項目について生徒の入学時から卒業時までの成長を視野に入れ、以下のとおりアセスメントを行う。また、アセスメントの結果は生徒指導・支援のみならず、教育改善に活用する。

- 「スクールポリシーに関するアンケート」および「学びに関するアンケート」を実施する。この 2 つでは上記 6 項目についてその達成度を尋ねるとともに、主体的に取り組んだ校内の活動についても尋ねることで、これらの関係性を明らかにし、教育活動の計画立案・実施・見直しに活用する。
- 上記のアンケートを補完する役割として、「学びみらい PASS（河合塾）」（前期課程用と後期課程用）および、各学期のふり返しとして行う上記 6 項目に対応したルーブリックによる自己評価を活用する。

▶ 今期の重点目標

- **アクティブラーニング型授業・探究・キャリア教育の 3 本柱**
「育成を目指す資質・能力」として定めた 6 項目の育成という観点から、あらためて既存の取組みの意義を教員間で確認し、生徒・保護者とも共有していく。
- **グローバル教育**
帰国子女に焦点を当てるのではなく、全生徒を対象にグローバル社会で活躍していく資質を育てる。3 年次の韓国語学研修は、全生徒を対象に共通語としての英語を伸ばすという本校のグローバル教育を象徴する行事と位置付け、共有する。それを土台として 4・5 年次の海外での研修への意欲的な参加を募っていく。
- **進路**
入学以来展開してきたアクティブラーニング型授業・探究・キャリア教育および P B L 型学校行事等で養ってきた「自ら考え、判断し、行動できる」姿勢を進学指導においても生かしていく。5 年次末に行うプレゼン型三者面談が象徴的に表す「新しい進学校」としての進路サポートを行っていく。

5. 桐蔭学園小学校の運営方針

▶ 教育目標

「自ら考え、判断し、行動できる子どもたち」を教育ビジョンとし、桐蔭学園小学校は次の3点を目指して教育を行う。

- 社会で活躍できるリーダーを育てる。
- 児童中心の学びを実践する。
- 地域と共に歩める学校を目指す。

▶ 育成を目指す資質・能力

上記の教育目標を達成するため、児童に身に付けてほしい力を「6つのキーコンピテンシー」として設定した。子どもたちが、予測困難な時代を生きるうえで必要であると考えた力である。その6つは次の通りである。また、この6つのキーコンピテンシーと各教科の学習の繋がりをシラバスで保護者に公開して共有していく。

思考力	疑問を抱き、自問自答し、他との違いや共通項を見出す楽しさを知り、先のことと考えられる広い視野を持って、考えたり発見したりできるようになり、論理的に他者に伝える力をつける。
チャレンジ力	自分に「できること」ではなく、「やりたいこと」を見つけ出し、結果だけにこだわらず、難しいことにも挑戦することを「楽しむ」ことができるようになり、最後まで「やり抜こう」とする力をつける。
創造力	自分の思いの中に「やりたいこと」を作り出し、自分の中に持っている考えを深めたり、発想を広げたり、多角的な視点からさまざまな工夫や改善をしたりしながら、既存の考えを超えて新しい価値を見出し、考える力をつける。
思いやり	自分の行動を振り返って、本当に相手のためになっているのかを考えたり、多方面に配慮をしたりしながら、互いを思いやり、尊重し合い、共感し、本音で向き合い、高め合えるような信頼関係を築こうとする力をつける。
メタ認知力	自らを振り返り、うまくいかなかったところや問題点などを見つけ出し、どこをどう改善すればよいかを理解し、「自分でやって成功したい！」「自分でやって成功しなければ意味がない！」と思うようになり、何事にも自分で意義や楽しさを見出しながら、失敗を成功の糧として自分自身を成長させることができる力をつける。
E-ジェンシー	新たな価値を見出したり、対立やジレンマを克服したり、責任のある行動を取ったりできる力をつけていくことで、自らが進んでいくべき方向性を設定したり、目標を達成するために求められる行動を特定したりしながら自らを成長させ、それらの力を活かして身近な集団や社会がよりよくなるように、自ら考え、判断しながら行動できる力をつける。

▶ アセスメントの計画

各コンピテンシーはルーブリック評価を取り入れ、児童自身がアセスメントをできるようにする。アセスメントは、児童への説明会なども実施して行う。

ほか、全国学力・学習状況調査（6年対象）、NRT 学力調査（3～6年対象）、学びに関するアンケート（全学年対象）なども行い、アセスメントの一助とする。

▶ 今期の重点目標

以下、3つの柱を重点目標とする。

○ 社会で活躍できるリーダーを育てる

児童の学びの環境を安心して活動できる場とする。クラスづくりや自分の居場所を感じられるような環境を整え、アウトプットの効果的な活用を進める。情報のインプットは個人でもできる活動のため、学校の中で効果的にアウトプットし、交流する時間を設定する。

○ 児童中心の学びを実践する

教師主導ではなく、児童が自ら学ぶ授業づくりを行う。そのために、教員研修をより実践的に行う。発言以外にも児童が自らを表現する機会を設け、どのような児童でも活躍できる機会をしっかりと設け、自ら進んで発表したい、と思えるような場を提供する。

○ 地域と共に歩める学校を目指す

地域の人々に桐蔭学園への共感をいただけるように、地域貢献活動や、地域のイベントへの参加などを積極的に進めていく。

6. 桐蔭学園幼稚園の運営方針

▶ 教育目標

学園の「自ら考え判断し行動できる子どもたち」を育む教育ビジョンに基づいて、幼稚園では特に、自らのやってみようをきっかけとして、やりたいことを見つけチャレンジし、ともだちと協力して目標に向かおうとする力を育む。

▶ 育成を目指す資質・能力

上記教育目標を達成するために、以下 3 項目を育成を目指す資質・能力として定める。

チャレンジする力	自らやりたいことを見つけたいいろいろなことに前向きに取り組み、粘り強くやり遂げようとする。
ともだちとつながる力	ともだちを大切にし、認め励まし合いながら生活を送り、みんなと協力して目標に向かおうとする。
まなびに向かう力	集団の中で話を聞いて取り組み、相手のことを聞き自分のことを伝え自分の考えや思いを深めようとする。

▶ アセスメントの計画

- 3 つの力を長期的ルーブリックにして学期末に全園児についてアセスメントする。
- 年度末に 3 学期分を総合した評価を行う。
- ほか、クラス日誌を Google 提供のスプレッドシートにてオンライン上でリアルタイムに幼稚園教員がリアルタイムで共有している。担任は「幼児期に育みたい姿」を意識して保育にあたり、各担任が毎日クラス日誌を入力し園長がそれに対してコメントを入力している。担任は園児の個々の事例やクラス全体のエピソードを記録することで今後の保育に活かしている。また、他教員も共有していることで園全体で保育にあたることができる。

▶ 今期の重点目標

- 絵本環境とわくわくデーについてそれぞれの教育的価値を保護者と共有しながら取り組む。
- 子どもたちの体づくりについて多様な動きを育む日々のプログラムの推進や体を動かす楽しさに触れる機会の提供に取り組む。
- デジタルと探究をつなげる取り組みについて 2026 年度以降の実施に向けた準備を行う。

7. 学校法人本部の職務目標

▶ 法人事務局

少子化による入学者減のリスクを低減するとともに、コスト増を抑えることで、資金収支、経常収支を改善し、次の5年間の飛躍の準備をする基礎固めの期間とする。重点目標は以下の通り。

- 募集定員を上回る入学者数を確保し、安定的な収入を実現する。
- 効果的な設備更新、調達を行い、支出を最低限に抑える。複数見積りを行うとともに、数社とのパートナーを深める。必要に応じて、外部への委託も行う。
- 桐蔭学園全体のブランド認知を向上させ、ステークホルダーとの関係を強化する。
- 人事評価を整えて働き甲斐のある職場を作る。
- リスク管理を強化する。定期的なマニュアルの見直し、更新を行うとともに、関係者の認識を常にアップデートするような仕組みを作る。

▶ 法人総務部

- 法人運営をより効率的な体制に整備し、各学校種への公的機関からの調査依頼及び補助金関係の手続きを滞りなく対応し実行する。
- 定期的に危機管理マニュアルを更新することにより、実効性のある危機管理体制を整備し、在校生の安全対策及び教職員の意識の向上を図る。
- 桐蔭学園報、広報誌の発行などを通じて幼稚園から大学までの教育活動の情報を発信することにより学園全体のブランディングの向上を図る。
- 卒業生や取引企業などを含め、積極的に幅広く寄附金の募集を精力的に行っていく。

▶ 人事労務部

- 限りある人員と時間を前提に業務を組織的かつ効率的に処理する体制を整え、安定的な業務処理のできる体制を確立する。
- 業務のIT化を進め、業務負担の軽減を行う。
- 職員研修を通じて能力・資質向上を進める。
- 職員の人事評価システムの整備・活用に関する具体的方策を整える。

▶ 財務部

- 経営改善計画を着実に進め、資金収支及び経常収支の改善を押し進める。
- 外部負債を計画的に減少させていく。

【収入面】

- 少子化への対応をしていきながらも各部門の入学（募集）定員充足による学納金収入を安定的に確保する。
- 寄附制度を拡充するなど、学納金以外の収入を拡充させる。
- 科学研究費や受託研究などの外部資金による研究費を充実させる。

【支出面】

- 人事、調達、会計システムによる予算管理の強化等によりコスト削減を進める。
- 施設設備の老朽化に伴う更新・修繕・補修を計画的に行い、支出の平準化を図る。

▶ 施設・調達室

- 学園全体の機能を最大限発揮するための基盤となる施設設備について、既存施設を長期的かつ有効に活用するため、年次計画による老朽施設の継続的な改善、機能強化、長寿命化を図り、安全・安心でユニバーサルデザイン、環境負荷低減に配慮した整備を行う。
- 複数年契約の対象拡大やスケールメリットを活かした多様な契約形式の導入、費用対効果の観点から可能なものについてアウトソーシングを検討し、取引先については透明性及び公平性を確保した競争を原則とし、調達の効率化などにより、学園全体の経費削減を進める。

▶ 事務部

【各事務室】

- 教員及び保護者との連携をしっかりと行い、ペーパーレス化への推進も含め効率よく円滑な事務業務を遂行する。

【営繕・植栽】

- 安全確保に務めながら、施設の修繕・補修整備を行う。
- 敷地内の樹木の手入れ及び草刈りを適宜行い学園の環境美化に努める。

【運転】

- 運転手の健康管理を徹底し、スクールバス等の運行時に細心の注意を払い在校生等の安全輸送に努める。

【印刷】

- 適切な印刷機器を配置するなど効率的かつ効果的な体制を整備し、印刷依頼者とコミュニケーションを図り丁寧な対応を心掛ける。

▶ 情報センター

- 学園データの統一化と業務処理手順の標準化を通して教職員の業務生産性向上を図る。
- 20年前に敷設された学内基幹ネットワークを更改し、より安定的で堅牢なシステム基盤を構築する。
- 大学から高等学校・中等教育学校・小学校・幼稚園までを対象とした「全学共通のICTサポート体制」を構築し、情報機器活用における利便性の向上とセキュリティ保護の向上を図る。
- 学園教職員ポータルを刷新し、業務に必要な情報を集約化することで、各部署への問合せ方法および各種学内システムへの効率的なアクセスを実現する
- 「機密情報の漏洩防止」と「外部からの攻撃（ウイルスや詐欺メール等）の未然防止」を目的とした情報セキュリティの強化を図る

▶ 図書センター

学園図書センター（大学図書館／中高図書室）の役割は、必要経費をできるだけ低減しつつ、教育研究に必要な学術情報を体系的に収集、蓄積、提供することにより、情報支援機能を担い、効果的に提供できる基盤を確立することである。

- 蔵書構築において、学園の教育研究活動を支えるための図書、学術雑誌、データベース等を適切に収集・整備し、情報資源の持続的利用を図る。
- 管理運営において、各校舎の特性に応じた多様な学修支援環境を充実させ、多様なニーズに応じたサービスを継続的に提供することを目指す。
- 学園図書センターの各施設間で共同運用される図書館システムを通じて、学園内での資料相互貸借や学外図書館との連携を進め、学園全体で 40 万冊にのぼる蔵書を有効活用し、学術情報の利用促進を図る。
- 排架スペースの狭隘化への対策として、経年資料等を精査し除籍を行うとともに、蔵書の外部保管を進める。
- 機関リポジトリのコンテンツ充実と、サヴィニー文庫をはじめとする貴重書コレクションの電子化公開を進め、学術情報の積極的な発信を通じて、地域・社会に貢献する。

▶ 健康管理センター

学園に在籍する幼稚園から大学院までの園児・児童・生徒・学生、そして教職員の健康保持増進に寄与することを目的とし、定期健康診断、病気やケガに対する応急処置、健康相談などを実施している。重点目標は下記の通り。

- 診療所は、経費を削減することに加え、利用しやすい診療所と周知することで受診者を増やし、収益を増額させる。
- 生徒等の健康診断において、業者と連携しながら実施する。また事後処置として、異常がある場合は、医療機関の受診を促し健康管理に努める。
- 教職員に実施しているストレスチェックの受検率を上げてストレスへの気づきを促す。また、高ストレス者に対し医師との面談や環境改善などを行い、メンタル不調になることを未然に防ぐ。
- 生徒等や教職員を対象に、健康に関する講習会や講演会を計画し実施する。
- 各校舎の保健室は、担当学年教諭や保護者との連絡を密にし、生徒等の健康状態の把握をし、疾病や怪我の予防対策と応急処置の対応を充実する。

【学園相談室】

学園相談室において在校生及び保護者などからの相談についてカウンセラーが相談者に寄り添ったカウンセリングを継続して行う。

【学生寮管理センター】

学生・生徒の寮については、設置の目的及びニーズ等を踏まえて、運営について検討し、経費の削減を図りながら改革を継続して進めていく。

▶ トランジションセンター

青葉区・都筑区・横浜市を中心とする地域住民、自治体、産業界とのつながりを深め、地域・社会とのさらなる連携強化を図ることで、学園全体のブランド認知向上を目指す。

- 学内外の地域イベントやボランティア活動を通じ、在校生・在学生と地域住民が共に学び合い、地域社会に貢献できる機会を創出する。
- 桐蔭会を中心とした卒業生ネットワークを活用し、キャリア教育や地域貢献活動への支援を行う。インターンシップの受け入れや就職支援などにおいても、卒業生の協力を得ながら、学園のキャリア支援をさらに充実させる。
- ペロブスカイト太陽電池をはじめとする大学研究の成果を、地域社会や住民へ積極的に還元する。研究成果の発信や実証実験の場を地域と共有し、学園の研究活動を身近に感じてもらうことで、地域との結びつきを強める。

▶ グローバルセンター

大学・高等学校・中等教育学校・小学校及び幼稚園が行う国際化推進のための教育・研究の支援及びグローバル人材の育成に寄与することを目的とする。

- 全学園的な目標・方針の策定と共有の強化として、運営会議・マネジメント会議等において、全学のグローバル化方針を明確に策定し、教授会・教員会議を通じて全教員に周知し、組織全体の共通認識を確立する。
- 既存組織（国際交流センター、英語村、外国語センター、学務関係、学生関係、入試広報）の役割を明確化し、連携体制を強化した上で各組織の連携フローを整備し、グローバル化施策を円滑に推進する。
- グローバル化推進施策として、国際教育プログラムの強化、外国人学生/生徒・教員の受け入れ促進及び学園内のグローバル環境整備を行う。

▶ 文化センター

文化センターは、桐蔭学園のキャリア教育を実践していく上で、基礎的・汎用的能力を身につけるための教養・情操を、国内外の一流の芸術に触れることにより涵養することを目的とする。

- 高等学校から幼稚園の文化行事として企画している「音楽」「演劇」「ミュージカル」「古典芸能」等のシンフォニーホール公演は、本物の文化・芸術に触れ、豊かな感性や創造性、コミュニケーション能力を育む機会として活用し、その得られた経験により心豊かな生徒・児童の育成を図る。
- シンフォニーホール公演の演目は、一流の芸術を伝えることのできる出演者であることが必要であり、鑑賞する生徒・児童の目線であることや、感動した、楽しかった、鑑賞してよかったと思える「文化」を感じ取ることのできる内容を教員と密接に協議して企画する。

